

汚染がれきを堺市で受け入れたら、あなたの子どもや家族が病気になるかもしれません

あなたは福島原発事故で汚染されたがれきが堺の焼却場（クリーンセンター東工場）で燃やされるかもしれないことを知っていますか？

決して脅しているのではありません。私たちは堺に住む普通のママの集まり(最後の自己紹介文参照)です。福島原発事故後放射能とどう向き合っていくか考えていく中、環境省の「広域処理」の協力の依頼に対して大阪府が手を挙げ、府独自の指針を決めました。致命的な大きな問題点が数多くあり、それは私たちの生活を脅かすものになるかもしれないのです。

安全性に大きな問題点

- ・**住民無視** 多数の市民の疑問の声を無視して、たった4人の検討委員が密室で十分な議論もなく強行に決定。
- ・**リスクを過小評価** 指針を決める際に基準にしたICRP（＝国際放射線防護委員会）の基準が、最近になりリスクを2倍以上に甘く見積もったものであることがわかりました。基準を作った本人が最近のインタビューで「科学的根拠はない。安全基準ではなく、成人の原発作業員の作業効率をよくするためだった」と証言。
- ・**内部被ばくを計算に入れていない** 海外でも低線量内部被ばくの健康被害が顕著化してきています。近年多くの専門家が指摘し、裁判でも採用されています。大阪府の医師達有志からも大阪府に反対声明が出されています。
- ・**リスクを認めた上での指針** 大阪府の指針では実はリスクの計算もされていて、一定のリスクは生じうる前提になっています。橋下大阪市長もツイッター上でこの問題に関し「安全性の確認が大切ですが、人間生きていれば社会的リスクがあるというなかで考えていきたい」とリスクを認める発言をしています。
インタビューでも「この安全性の問題については今は国を挙げて『安全ですよ』というような話になっているのであれば、もうそれは住民の皆さんに判断してもらうような話ではないですからね。」と、住民の意見を聞くつもりはまったくないようです。
- ・**扱い方をまちがっている** 放射性物質は「拡散させずに閉じ込める」のが鉄則であり世界の常識です。チェルノブイリの事故後、たき火は「小さな原子炉」とよばれ厳重に禁止されていました。
2年間24時間焼却され続けると、焼却炉自体が放射性物質化することが指摘されています。
- ・**バグフィルターを過信しすぎ** 環境省はバグフィルターで99.9%放射性物質が取れると言っていますが、それは実験データや科学的根拠があつてのものではなく、肺ガンやぜんそくの原因となるPM2.5という粒子が99.9%捕獲できるというデータを流用したものであると認めています。後付けするように、福島県内6か所の焼却施設で測定したデータを公表したが、測定方法や内容に問題ありと2月12日付の東京新聞が報じています。専門家は「原子レベルの放射性物質が除去できるというのは、サッカーのゴールネットで野球のボールを捕獲できるというに等しい暴論だ。焼却炉の煙突から放射性物質が放出されれば、その空気を吸った住民は内部被ばくする」と危険性を提唱しています。

岩手県に対して真の復興支援にはならない

・現地に雇用が生まれず、お金ばかり取られると現地から不満の声

よく「がれきの広域処理が進まないから復興が進まない」と言われていますが、広域処理に回される量は岩手県のがれき総量の5分の1にしかすぎず、広域処理が進まないことによって復興が進まないということにはならないと多くの専門家が指摘しています。そして大阪府はがれき処理にかかった費用を岩手県に請求することになっており、これでは被災地から復興交付金の横取りになってしまいます。現地に雇用も生まれずお金ばかり取られる広域処理に反発の声があがっているのです。先日の大阪市会でも、岩手県から大阪での広域処理反対の陳情が届いていることが報告されました。

・**真の復興支援を** 放射性物質対策をほどこした処理施設の建設や、がれきを有効利用した防波堤の建設等数々の専門家からいろいろなアイデアが出されています。現地の雇用対策を考えた支援をするのが本当の復興支援ではないでしょうか？

これまであげたものはほんの一部であり、焼却炉の構造の問題（放射性物質対応にはなっておらず被ばくを免れない）、焼却灰を投棄することによる海の汚染、少量でも肺がん等をひきおこすと言われているプルトニウム、ウラン、ストロンチウムや、アスベストの問題を考慮されていない危険性等・・・問題が数えきれないほどあるのです（詳しくは私たちのHPをご覧ください）。十分な議論をされず、そのような問題点を解消されないまま、広域処理ありきで話がすすめられているのは、**利権が絡んでいる**からだとも言われています。

大阪北部の市町村では市民の反対が相次ぎ、続々と**がれき受け入れ拒否を表明**しています。

（2月24日現在、箕面市、交野市、枚方市、四条畷市、寝屋川市、守口市、門真市、大東市、吹田市、高槻市）それに対し、大阪南部の市町村はがれき受け入れ拒否を表明したところは1つもなくすべて検討中で、大阪南部での焼却が狙われているという情報もあります。

過去を見ても、水俣病、アスベスト、血液製剤等、民間が危険だと指摘していても国が安全だと言い続けたために被害が拡大し、何年も経てからやっと国が危険性を認めるという歴史の繰り返しです。

一度汚染された土地は何千年、何万年も元には戻りません。これからも安心して暮らせる街にするために、安全に子育てできる街にするために、みなさんの声が必要です！

市役所や区役所に置いてある市政への提案箱に意見を書いた紙を入れれば市長が必ず読んでくれるという情報を得ました。ぜひ皆様のご意見を市政に伝えてください！

堺市環境局 環境事業部 廃棄物政策課（TEL. 072-228-7478）

堺市HPからも市政への提案箱へ投書できます <http://www.city.sakai.lg.jp/>

私たちは、福島での原発事故を受けて、これから放射能とどう向き合って生きていくべきかを一緒に考えるために「放射能のことみんなで話そう考えてみよう@堺」というネットワークを作りました。メンバーはまだ少人数で、多くは子供をもつ普通のママさんです。東日本から堺へ避難してきた自主避難者が数名います。特定の宗教や政党には属しておらず、プロ市民ではありません。ふつーのママが、安心して暮らしていけるよう知恵を出し合っていける場にしていきたい。今後堺市に給食の測定に関する要望等を出していく予定です。HPもぜひご覧ください！

放射能のことみんなで話そう考えてみよう@堺 ホームページ <http://talksakai.web.fc2.com/>

